







(その四)

工場又は事業場の名称	広栄化学工業株式会社 千葉工場
------------	--------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

平成30年度の揮発性有機化合物の使用量は、設備増強工事を行ったこともあり、計画値に対し増加しております。揮発性有機化合物を含む廃棄物は、外部委託処理する以外に工場内焼却設備にて焼却していますが、使用量の増加に伴い廃棄物量も増加したため、揮発性有機化合物の排出量も増加し、計画年度の目標を達成できませんでした。目標達成に向け、個別の排出源対策を検討いたします。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。



(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社 横河システム建築 千葉工場
------------	-----------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

生産量拡大により年々使用量が増加している。
断熱材に関しては、接着剤を使用する断熱材仕様から、接着剤を使用しない敷設タイプの断熱材仕様へ、引き続き採用割合を増やしていく。
塗料に関しては、水性塗料の使用を検討していく。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。





(その三)

工場又は事業場の名称	日本製鉄株式会社 君津製鉄所
------------	-------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
2 2	3 1	3 3	3 9	5 4	2 1	2 3	2 9	9 3	4 9

対策 11	対策 12
5 1	5 6

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策4について ----- VOCを含むガス冷却設備の排気を副生ガス配管に回収しました。 -----
対策8について ----- 洗浄剤を再利用することにより、洗浄剤の廃棄量を削減しました。 -----
対策10について ----- VOCを含む軽油タンク・蒸留塔の排気を副生ガス配管に回収しました。 ----- ----- ----- ----- -----



(その三)

工場又は  
事業場の名称

富士石油株式会社  
袖ヶ浦製油所

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
4	1	5	2						

その他対策（19、29、39、49、59、99）を記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対象油種の充てん出荷施設には平成2年3月までに炭化水素回収施設を付設し、出荷充てん時に排出されるVOCの約90%を回収している。

また固定屋根式の屋外貯蔵タンクに対象油種を貯蔵する必要性が生じた場合は、その都度当該タンクを浮屋根式（又は内部浮屋根式）に改造した後に対象油種を導入することでVOCの排出抑制に努めてきている。

したがって、弊所においては既にVOC排出抑制に実施可能な設備対策は全て済ませていると理解している。

現時点で具体的な計画があるわけではないが、今後も屋外貯蔵タンクに対象油種の貯蔵する必要性が生じた場合等は、当然ながら必要な設備対応を完了した後でなければこれを実施しないことでVOC排出抑制に努めていく。

(その四)

工場又は 事業場の名称	富士石油株式会社 袖ヶ浦製油所
----------------	--------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<p>1) 「環境の保全に関する協定書」（以下、単に「協定」という。）の定めに基づき、対象油種を固定屋根式タンクに貯蔵する必要性が生じた場合は、これを浮屋根式（又は内部浮屋根式）に改造後に導入することでVOCの排出抑制に努めている。</p> <p>2) 平成2年3月に充てん出荷設備に炭化水素回収設備を設置し、出荷充てん時に排出されるVOCの約90%を回収している。当時「協定」の定めでは炭化水素回収設備の運転期間を光化学スモッグ注意報等の発令される4月から10月の間とされていたが、弊所ではVOCのより積極的な回収を図るため当初より年間を通じ回収設備を運転してきている。 もし、炭化水素回収設備が設置されていないとした場合、基準年のVOC排出量は460000kgと試算され、これを基準年の排出量と仮定すると、本実績報告年度の排出量は17%の削減率となる。</p>
--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。











(その四)

工場又は事業場の名称	東邦化学工業株式会社 千葉工場
------------	--------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

基準年(平成12年)以降、設備増設により生産品目が多様化して、VOC原料の使用量が大幅に増加している。コンデンサーの増強、冷却装置の増強等を実施しているが基準年を下回ることは困難である。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。



(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社A D E K A 千葉工場
------------	-----------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

全体では生産減少により昨年度よりも削減したが、クロロベンゼン、 1, 2-ジクロロエタン及びジクロロメタンを使用する製品の生産量は 増加しており、目標達成が困難な状況にある。 本年度も生産量増加の見込みであり、削減検討を進めている。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。



